

〈隷書〉

青山兩岸尋詩路  
黃葉孤村賣酒家

井之上 南岳先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課題は一人一点のみとする)

半折作品は各課題ごとに横／＼に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉

青山兩岸尋詩路  
黃葉孤村賣酒家

吉田 成美先生書

□ 青山兩岸詩を尋ぬるの路、  
黃葉孤村酒を賣る家。

(王時憲)

次号予告「無燈不做滿心夢 有酒何愁縮脚眠」

〈行書〉

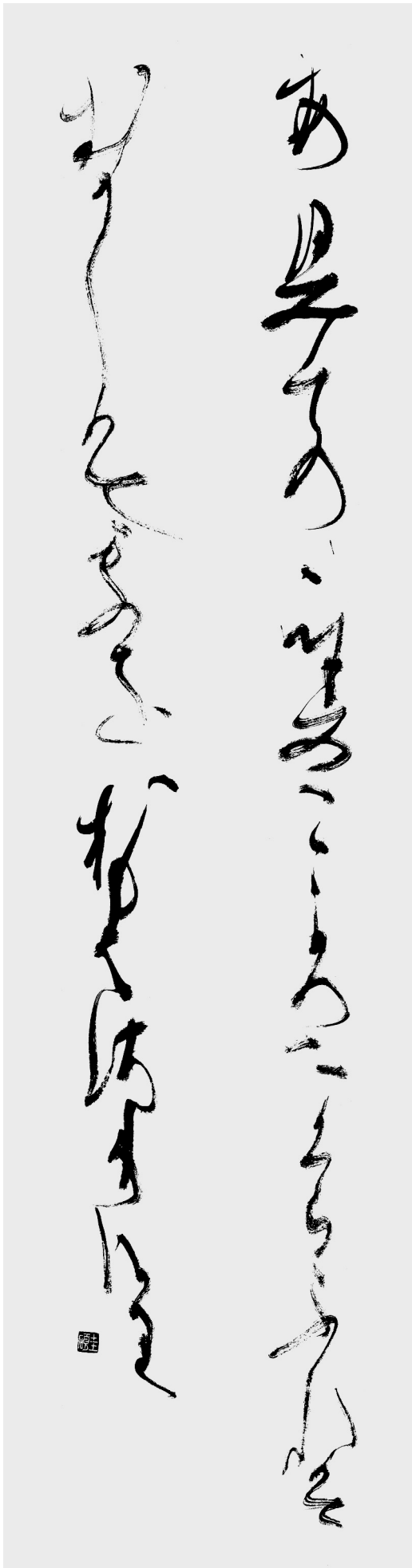
清原大龍先生書



▽川の左右にそばだつ青山はここぞ詩を尋ねるべき路であり、もみじする人里遠き村の酒を売る家に一酔するもよい。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ あひみての、遅のころに くらふれ盤 む可し盤ものを おも者佐り介里  
あひみての のちの心に くらふれば 昔は物を 思はさりけり

△百人一首四十三▽

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

小 畠 秋 聲 先 生 臨

動為人範 斯所謂三  
宗廣矩九族承規者

▽ 孟敬訓墓誌銘

動為人範斯所謂三宗廣矩九族承規者

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉 田 成 堂 先 生 書

葉鶏頭の いただき躍る 驟雨かな  
杉田久女の句

□ 杉田久女の句

葉鶏頭の いただき躍る 驟雨かな

《手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½縦のみ） — 9月末日締切 —

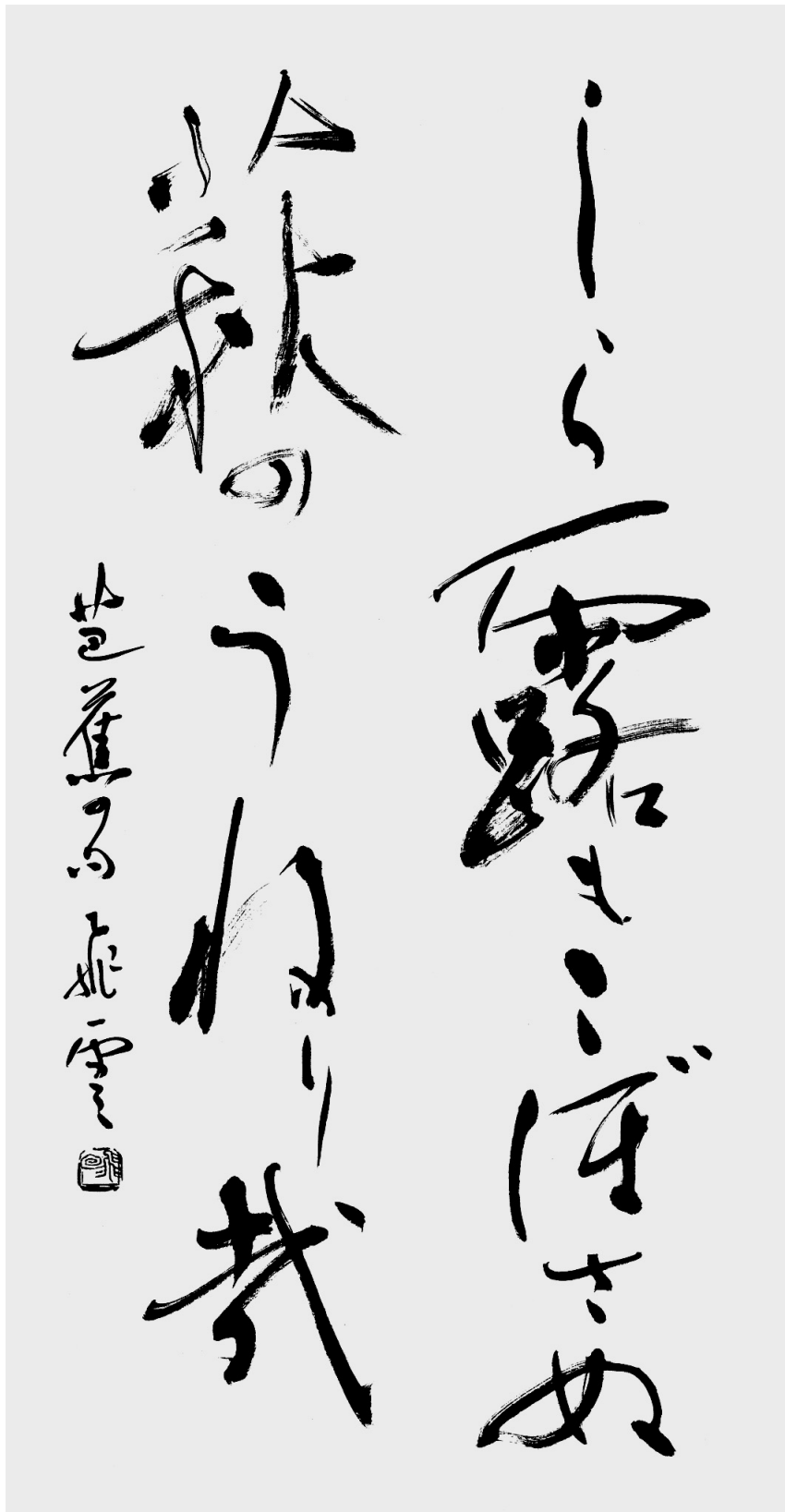
（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

□ 松尾芭蕉の句

しら露も こぼさぬ萩の うねり哉

白露を乗せたたわわな萩のうねりは、清涼な風のいたずらか。

秋の清澄感を出したいと思い、細いが、くいこみのある線と余白の白を生かす工夫をしました。



山 本 飛 雲 先 生 書

条幅随意参考手本（半折½縦のみ） — 9月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

□ 善鄰 （隣を善くす）

近隣と親しくすること。（左氏傳より）  
昨今、近所の付き合いや家族の關係が薄れてきたのか、想像のできない事件が立て続けに起き、また隣には誰が住んでいるか分からないという話もよく耳にします。よき近所付き合い、よき家族關係等ができる日本でありたいですね。



清 原 大 龍 先 生 書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 澄江に野色浮かぶ (宋・戴復古)  
澄みきつた川には、野の景色が影を落とす。



次号予告「枯桑知天風」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)



□ 澄江に野色浮かぶ（宋・戴復古）  
澄みきつた川には、野の景色が影を落とす。

次号予告「枯桑知天風」

吉田成美先生書

半紙随意参考手本 — 9月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)



□ 衆心成城 しゅうしんせいじょう 衆心城を成す  
団結の力強さをいう。 (「国語」周語下)

次号予告「淑質」

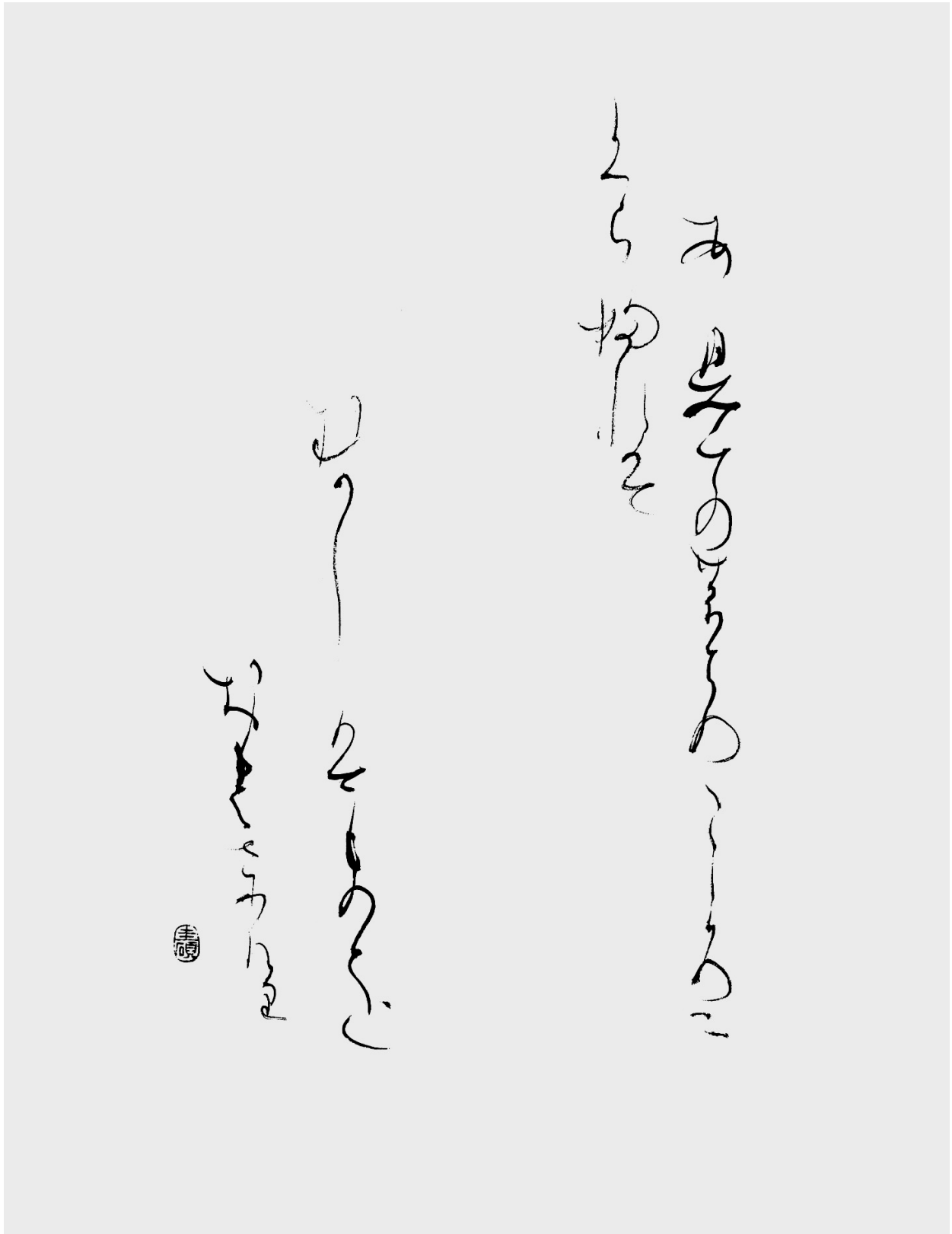
渡 邊 大 嶽 先 生 書

半紙随意参考手本 — 9月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

あひみての  
のちの心に  
くらふれば  
昔は物を  
思はさりけり



□ あひみての  
農<sup>の</sup>ちのこゝろに  
くら<sup>ふ</sup>婦<sup>は</sup>れ盤<sup>は</sup>  
む<sup>か</sup>し盤<sup>は</sup>ものを  
おも<sup>は</sup>者<sup>は</sup>さり介<sup>けり</sup>里

舟尾圭碩先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

によつぽりと 秋の空なる 不尽の山 △鬼貫の句▽

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼つて提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)



坂元紫香先生書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽

字形が左に傾たり、点画の接点を離すこともある。文字の空間を広く明るく表現するように心がけたい。

範  
斯  
謂  
三  
宗  
羽

蘇

水

臨



「範斯所謂三宗」

廣 瀬 蘇 水 先 生 臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

〈実用書〉

様 殿 御中 各位  
 平素よりお世話様に 先生 ご家族 都道 府県 市区 町村 郡字 番地  
 今後ともご指導を

|     |           |  |     |     |     |
|-----|-----------|--|-----|-----|-----|
| 姓 号 | 平素よりお世話様に |  | 市 区 | 先 生 | 様・殿 |
|     | 今後ともご指導を  |  | 町 村 | ご家族 | 殿・取 |
|     |           |  | 郡 字 | 都 道 | 御 中 |
|     |           |  | 番 地 | 府 県 | 各 位 |

大坪桂子先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

夏の雑踏は消えて 海も山も本来の姿に戻り くつろいで見えます 薄の穂も出始めて  
秋の気配が漂っています 爽やかな涼風が吹くのも間近です

夏の雑踏は消えて海も山も  
本来の姿に戻りくつろいで見え  
ます薄の穂も出始めて秋の気  
配が漂っています爽やかな涼風が  
吹くのも間近です 喜代

伊良子 喜代先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書▽

# 書言

九月に入りました。博多どんたく、山笠と並ぶ、博多三大祭りのひとつ、笠崎宮放生会が十二日に始まります。放生とは生命を慈しみ、海山の幸に感謝を捧げ、場内の町に秋の訪れを告げる祭りです。

「チャンポ」と呼ばれるビードロや、瓦をはくという縁起物のおぼろ、葉付の「新しうが」がずく知られ、参道には露店が並びます。

連休を利用して、出掛けませんか。

野のある便箋に書いてみよう。

△ 26 cm × 18 cm ▽

紙質は自由。

• 先日、ある高校生からお手紙をいただきました。小さめの文字ではありましたが、一文字一文字とても丁寧に、心のこもった文字で書かれていました。とてもあたたかい気持ちになりました。この気持ちを周りの若い方々にも伝えていきたいです。 ＜※放生会…ほうじょうや＞

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵 頭 白 慧 先 生 書

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

左右の目

小学4年

光るにじ

小学3年

はたけ

小学2年

いね

ようねん・小学1年

未知への挑戦

中学2・3年

流星群

中学1年

秋の名月

小学6年

もみじ葉

小学5年

坂元紫香先生書

△条幅¼ 四尺画仙紙半折¼ : 68cm × 17・5cm ▽

□「トメ」「ハネ」「ハライ」のちがいに気をつけて、ていねいに書きましょう。

けはた

小学二年

次号予告「カナリヤ」

□「ね」の二画目は、筆だけではなく、腕全体をつかっのびやかに書きましょう。

いね

ようねん・小学一年

次号予告「ほん」

坂 元 紫 香 先 生 書

□筆順に気をつけながら、二画目の線を強調し、伸びやかにバランスよく書こう。

左右

小学四年

次号予告「世界」

□画の接する位置と深さに気をつけ、「ハネ」「ハライ」・曲がり」に注意し、伸びやかに書こう。

光

小学三年

次号予告「火山」

吉 田 成 美 先 生 書

小学 五年

次号予告「信 念」

じも  
葉み

□ 文字の大きさに注意し、漢字と平仮名の調和を考えて、明るい作品にしましょう。

小学 六年

次号予告「創 造」

名秋  
月の

□ 「秋」の「へん」と「つくり」のバランスに注意し、「名月」の払いをのびのびと。

秋 永 春 霞 先 生 書

中学 一年

次号予告「紅 葉」(行書)

流  
星

□ 行書の点画の連続と方向や形の変化を理解し、楷書と行書の違いに気をつけて書こう。

中学二・三年

次号予告「旅 路」(行書)

挑  
戦

□ 点画の連続と丸みや方向に気をつけ、リズムに乗った動きのある作品にしよう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学二年

|             | 段        | 級  |
|-------------|----------|----|
| 一<br>口<br>中 | ㊦まづすぐおろす |    |
| コ<br>コ      |          | 氏名 |
| 弓<br>身      | ㊧はねる     |    |
| 弱<br>弱      | ㊨はねる     |    |
| (よわ)        |          |    |
| 一<br>目<br>目 | ㊩上にはねる   |    |
| 見<br>見      |          |    |

坂元紫香先生書

ようねん・小学一年

|                                     |     |    |   |   |   |
|-------------------------------------|-----|----|---|---|---|
| ン<br>ー<br>ニ<br>チ<br><br>十<br>ホ<br>ボ | 段 級 | ト  | ズ | み | ハ |
|                                     | 氏 名 | に  | ボ |   | ン |
|                                     |     |    | ン | わ | カ |
|                                     |     | い  | の | す | チ |
|                                     |     | れ  |   | れ |   |
|                                     |     | ま  | ポ | ず | ち |
|                                     |     | し  | ケ | に | り |
|                                     |     | た。 | ッ |   | が |

小学四年

人間のちえは、人々の心を  
結ぶ便利な道具や方法を  
考え出し、多くの人によろ  
こびをもたらすでしよう。

坂元紫香先生書

小学三年

山野さんたちの発表メモや相談の様子をさん考に、行事のせつめいを考え、本番にのぞみます。

小 学 六 年

兄さんのかには、その右側の四本の足の中の二本を、弟の平べったい頭にのせながら言いました。「分からない。魚がまたつうともどって、下の方へ行きました。」

小 学 五 年

残雪は、油断なく地上を見下ろしながら、群れを率いてやって来ました。そして、ふと、いつものえさ場に、昨日までなかった小さな小屋をみとめました。

小 畠 秋 聲 先 生 書

## 一 般 (A)

いまや情報はあふれ、手早く解答を得られる時代、不思議への感性が乾いて疑問そのものが減りつつある。朝永振一郎は、教師の役目を、生徒を知識で満足させないことだと言いつつ、残した。

|     |     |
|-----|-----|
|     |     |
| 段 級 | 氏 名 |
|     |     |

※142%拡大で原寸大になります。

中学

|     |        |      |
|-----|--------|------|
| 一   | ①つき出る  | ②はねる |
| 二   | ③つきでない |      |
| 三   | ④はねる   |      |
| 四   | ⑤はねる   |      |
| 五   | ⑥はねる   |      |
| 六   | ⑦はねる   |      |
| 七   | ⑧はねる   |      |
| 八   | ⑨はねる   |      |
| 九   | ⑩はねる   |      |
| 十   | ⑪はねる   |      |
| 十一  | ⑫はねる   |      |
| 十二  | ⑬はねる   |      |
| 十三  | ⑭はねる   |      |
| 十四  | ⑮はねる   |      |
| 十五  | ⑯はねる   |      |
| 十六  | ⑰はねる   |      |
| 十七  | ⑱はねる   |      |
| 十八  | ⑲はねる   |      |
| 十九  | ⑳はねる   |      |
| 二十  | ㉑はねる   |      |
| 二十一 | ㉒はねる   |      |
| 二十二 | ㉓はねる   |      |
| 二十三 | ㉔はねる   |      |
| 二十四 | ㉕はねる   |      |
| 二十五 | ㉖はねる   |      |
| 二十六 | ㉗はねる   |      |
| 二十七 | ㉘はねる   |      |
| 二十八 | ㉙はねる   |      |
| 二十九 | ㉚はねる   |      |
| 三十  | ㉛はねる   |      |
| 三十一 | ㉜はねる   |      |
| 三十二 | ㉝はねる   |      |
| 三十三 | ㉞はねる   |      |
| 三十四 | ㉟はねる   |      |
| 三十五 | ㊱はねる   |      |
| 三十六 | ㊲はねる   |      |
| 三十七 | ㊳はねる   |      |
| 三十八 | ㊴はねる   |      |
| 三十九 | ㊵はねる   |      |
| 四十  | ㊶はねる   |      |
| 四十一 | ㊷はねる   |      |
| 四十二 | ㊸はねる   |      |
| 四十三 | ㊹はねる   |      |
| 四十四 | ㊺はねる   |      |
| 四十五 | ㊻はねる   |      |
| 四十六 | ㊼はねる   |      |
| 四十七 | ㊽はねる   |      |
| 四十八 | ㊾はねる   |      |
| 四十九 | ㊿はねる   |      |
| 五十  | ㊿はねる   |      |

小 畠 秋 聲 先 生 書